

主は、主生きておられる
Unser HERR lebt

2020
graph magazine vol. 54

Unser
HERR
lebt

Unser
HERR
lebt
主は、主生きておられる

まことに、まことに、あなたに告げます。
人は、新しく生まれなければ、神の国を見ることはできません。(ヨハネ3・3)

vol. 54 定価100円(税込み)

メッセージ

4 イエスの救い(3) 進歩への道「知ること」 ゴットホルド・ベック

18 もう一つの病 松田 博

7人の証し

29 主は私に永遠の命を与えられた 村上房美

37 主よ、あなたはいつさいのことをご存じです 竹田竹子

48 小さな者に目をとめてくださる主 仙石真由美

59 主は生きておられます 山科一雄

64 数えてみよ、主の恵み 山科理永子

77 一つの^{とげ}棘と忍耐 野口 隆

87 イエスさまは決してあなたを離れず
またあなたを捨てない 野口幸子

イエスの救い(3) 進歩への道「知ること」

ゴットホルド・ベック

今回は、ルカの福音書23章33節から43節、そしてローマ人への手紙6章1節から11節を学び「進歩への道、すなわち知ること」について考えてみたいと思います。

主なる神様のご目的は、私たちが主イエス様の似姿に変えられていくことです。これが私たちの内に実現する時に、私たちはパウロと同じように、「もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです。」(ガラテヤ2:20)と、言えるようになります。

ところで問題は、いかにしてそのようなことになるかということです。

これまで私たちは、どうしても知らなければならな

い基本的な二つの事柄について学んで来ました。「人間の罪と主イエス様の血潮の価値」、そして「私たちの古い人に対する主イエス様の十字架の価値」です。この事実がなければ、私たちは揺るがないしかりとした土台の上に立つことはできません。この恵みの事実こそ、私たちの信仰生活の土台なのです。

新約聖書を見ると、主イエス様の血潮と十字架の間には、明らかに違いのあることがわかります。ローマ人への手紙の1章1節から5章11節までには、「私たちがなしたことは何か」、「罪を犯した」、「罪を消すためには何があるのか」、「主イエス様の血潮がある」。そして、その結果は、赦しであることと書き記されています。それは次の二つのみことばを見るとすぐにわかります。

罪の奴隷でなくなるためであることを、私たちは知っています。(ローマ 6:6)

神は、キリスト・イエスを、その血による、また信仰による、なだめの供え物として、公にお示しになりました。それは、ご自身の義を現すためです。というのは、今までに犯されて来た罪を神の忍耐をもって見のがして来られたからです。(ローマ 3:25)

ですから、今すでにキリストの血によって義と認められた私たちが、彼によって神の怒りから救われるのは、なおさらのことです。(ローマ 5:9)

そして、ローマ人への手紙5章12節から8章の終わるまでには、「私たちは何者か」、「罪人である」。「その解決の手段は何か」、「十字架である」。そしてその結果は、解放であるということが書かれています。ローマ人への手紙6章6節を見るとわかります。

私たちの古い人がキリストとともに十字架につけられたのは、罪のからだが減びて、私たちがもはやこれからは

これまで見てきたように、イエス様の「血潮」と「十字架」は分けられています。主イエス様の救いの御わざはひとつでした。つまり主イエス様の救いには、この両面があるということです。そして、私たちはこの両面をそれぞれに体験して、自分のものとしなければならぬのです。

主である神様のご目的は何でしょうか。すでに何回も繰り返し述べてきたことですが、もう一度申し上げましょう。私たちが御子イエス様の似姿に変えられていくことが、神の御心であり、ご目的です。このために、主イエス様の血が流されました。私たちの赦しのために、そして赦された私たちが主の似姿に変えられていくために、主イエス様の血潮は流され、私たちと共に、主が十字架で死なれました。これは私たちが知らなければならぬ揺るがない事実です。

私たちはこれらのことを学んできましたが、実際にはどうでしょうか。私たちは現実に主イエス様の似姿に変えられて行っているでしょうか。実際に約束の勝利の生活を営んでいるでしょうか。もしそうでないとしたら、どうすれば、そのようなになれるのでしょうか。

この問いに対する答えを、ローマ人への手紙6章から8章を学んでみつけましょう。その答えは次の四つの側面を持っています。

第一に知ることです。6章3節に「あなたがたは知らないのですか。」、6、9節に「私たちは知っています。」「と「知る」という表現が3回も出てきます。

第二に計算することです。6章11節に「思いなさい」と書かれています。(ここの「思いなさい」はギリシヤ語で「計算する」という意味があります)

第三は捧げることです。6章12、13節に誰に捧げるべきかが書かれています。

第四は御霊によって歩むことです。おもに8章4節に御霊に従って歩むのは何のためか書かれています。

知ること

その1 どうしても知らなければならぬこととは

何か

その答えは、私たちが主イエス様とともに十字架につけられたのが、「歴史的な事実」であるということです。

ローマ人への手紙6章1節から11節までは、この歴史的現実をはつきりと述べています。イエス様が死なれる時、私たちもイエス様の内にあってイエス様とともに死にましたから、イエス様の死は私たちの身代わりの死となりました。この事実を心の目で見たいことのない人は、霊的に進歩しません。

主イエス様が、私たちの罪を一身に背負い、罪のかたまりとなって、十字架の上で死なれたということを知らなければ、私たちは義とされることはできません。それと同じように、もし、私たちが主と共に十字架につけられて死んだことを心の目で見なければ、前進す

私たちは、これらの四つのことを実際に体験しなければなりません。この四つを体験しないうちは、罪を犯しては、赦していただき、また罪を犯し、また…と言うふうには、信心深い顔をして回転木馬に乗っているような状態になってしまいます。

どうすれば内面的、霊的に進歩し、前進することが出来るのでしょうか。また勝利の生活を送り続けることが出来るのでしょうか。さらに、どうしたら私たちの内に、主イエス様の似姿がかたち造られていくのでしょうか。

まず、「知ること」によつてです。ここからは「知ること」について、三つの質問に分けて考えてみましょう。一つ目は、私たちは何を知らなければならぬのか。二つ目は、私たちはどのようにして知るべきか。三つ目は、私たちはなぜ知らなければならぬのか、です。では、この三つの点について一緒に見てみたいと思います。

ることができません。罪だけでなく、私たち自身と共にイエス様は十字架におかになりましたのです。

あなたは、どのようにして罪の赦しを自分のものとしたのでしょうか。まず、主イエス様があなたの罪を一身に背負い、身代わりに十字架で死なれたことを認めました。そして、イエス様の血潮があなたの一つひとつの罪をすべて、完全に聖めることを知りました。このように主イエス様が罪の負債をすべて負い、十字架の上で死なれたことを知った時に、あなたはどのようなしましたか。

その時あなたは、「どうぞ、私のところに来てください。私の罪のために死んでください」と、祈ったでしょうか。そうではなく「主イエス様、あなたは私のために、もうすべてを成してくださったことを感謝致します」と祈ったに違いありません。イエス様が、あなたのために、十字架の上ですべてのことを成就してくださったことは、もうすでに過去に行われた事実だから

です。

それでは、罪からの「解放」のためには何をしたらよいのでしょうか。罪の赦しと同様に、祈って願う必要はありません。もうすでに救いの御わざ、つまり「罪の赦しと解放の御わざ」は事実として終わっています。ですから、その事実をしつかりと知って、ただ感謝すればよいのです。

主である神は、私たちをキリストの内に置いてくださいました。ですから、イエス様が十字架で死なれた時、私たちも共に死んだのです。これが事実ですから、「イエス様、私は悪人です。私を十字架につけてください」と、今更祈る必要はありません。あなたは、すでに罪が赦されていることを知った時、「私の罪を赦すために来てください」とは祈りませんでした。それと同じように、「イエス様、私の自我を十字架につけてください」と祈る必要はありません。

罪の赦しは血潮により、自我からの解放は十字架によって、もうすでに成されています。これは過去に行

われた事実であります。あなたにできることは、主イエス様があなたのために十字架におかかりになったことを、あなたを死に導いてくださったことを感謝することだけです。

愛する兄弟姉妹よ。主に感謝し、この事実の光の中を歩みましょう。そのとき、詩篇106篇12節のみことばが、私たちのものとなります。「そこで、彼らはみことばを信じ、主への賛美を歌った。」と書いてあります。

「主イエス様が、十字架の上ですでに死なれたということを信じますか」と聞かれて「もちろん、信じています」と答えます。なぜそれを信じているのでしょうか。なぜならば、神のみことばである聖書にそれがつきりと記されているからです。この神のみことばである聖書が、主は私たちの罪のために死なれただけではなく、私たちと共に死なれたことを告げています。

ローマ人への手紙5章8節には「キリストが私たちのために死んでくださった。」と書いてあります。私のため、

あなたのためにキリストが死んでくださった。これは揺るがすことのできない事実です。

さらに、ローマ人への手紙6章6節には「私たちの古い人がキリストとともに十字架につけられた。」8節には「私たちがキリストとともに死んだ。」と書いてあります。これも動かすことのできない事実であります。なぜ私たちは、「キリストとともに十字架につけられた。」のでしょうか。また、私たちが十字架につけられた日付はいつでしょうか。昨日だったでしょうか。今日でしょうか。明日でしょうか。

神のみことばは、「私たちがキリストとともに死んだ。」と述べています。私たちが十字架につけられて死んだのは、イエス様があの二千年前に死なれたのと同じ時であり、歴史的な事実です。

あなたはイエス様が十字架で死なれたことを、なぜ、信じているのでしょうか。そのことを感じるからですか。いいえ。あなたは、今までにそれを感じたことはないと思います。あなたが信じているのは、神のことば

である聖書にそう書いてあるからです。

ルカの福音書23章33節から43節にあるように、主イエス様とともに並んで二人の強盗が十字架につけられました。この事実を、あなたは感じる事ができません。でも信じています。神のみことばである聖書にそう書いてあるからです。

あなたはイエス様が十字架におかかりになり、死なれたこと、またイエス様とともに二人の強盗が十字架刑で死んだことを信じています。しかし、あなたも共に十字架につけられてしまったことを、信じているのでしょうか。

二人の強盗はそれぞれ違う十字架につけられました。またイエス様と時間を異にして死にました。しかしあなたは、イエス様と同じ十字架にかかり、同じ時間に死んだのです。どうしたらこの事実を知ることができるのでしょうか。

主イエス様ご自身がそう言われたから、知ることができるのです。この知識は、私たちの感情とは何のか

かわりありません。私たちが感じようと感じまいと歴史的な事実なのです。主イエス様が十字架の上で亡くなられ、二人の強盗が十字架で死んだことも事実です。同じように私たちも、主と共に十字架の上で死んだ。これも動かすことのできない事実です。

私たちは死んだのです。運命のサイコロは、もうすでに振られたのです。そして、ローマ人への手紙6章7節には、すでに「死んでしまった者は、罪から解放されているのです。」と書いてあります。これこそが、信者にとつての福音ではありませんか。

私たちが十字架にかかるということは、私たちがどんなに意志を働かせても、もがいて努力しても自分の体験となるものではありません。これは、すでにもう成された御わざを、信仰によって自分のものとする以外に方法がありません。

あなたはどのようにして救われたのでしょうか。どのようにして信者になったのでしょうか。聖書を読むことによってでしょうか。それとも祈りによって、教

会に来ることによって、または献金することによって救われたのでしょうか。決してそうではありません。あなたはある時、もうすでに主イエス様が、あなたのために成していただくつた御わざを発見し、その救いの御わざを心に受け入れ感謝しました。その時、あなたの心の内に喜びと平安と望みが湧いてきたのです。

兄弟姉妹よ。次のことを覚えていただきたいのです。救いと主の聖さに至ること、つまり「赦しと解放」は、同じ土台の上にあります。あなたは、罪を赦されたのと同じように、罪から解放されることができるのです。神の用いられる解放の方法は、人間の用いるそれとはまったく異なります。

人間は、罪を自分の努力で抑えつけ、その上を乗り越えて行くことにより罪から解放されようと思いますが、神は、古い人を捨て去ってしまうという方法をとります。多くの信者は自分の弱さを悲しんでいます。もっと強ければ良いのにと考えますが、失敗します。さら

ないでしょう。

その2 どのようにして知るべきか

続いて二番目の問い、私たちはこの歴史的事実を、どのようにして知らなければならないのでしょうか。答えは、啓示によつてです。

キリスト者の第一歩は、啓示による知識で始まるはずのものです。この啓示による知識は、他のいろいろな真理についての教え、頭の知識とはまったく違った性質のものであります。私たちの心の目が開かれて、キリストの内にあつて私たちが何をいただいているのか、それがわかつた時に、この啓示による知識を自分のものとしたこととなります。これは御霊がなしてくださることです。

主なる神の私たちを解放する方法は、私たちを次第に強くすることではありません。日増しに私たちを弱くすることです。主なる神は、私たちに罪の力からの解放を成し遂げてくださいます。それは、私たちの古い人を強めることによってではなく、私たちの古い人の働きを殺すことによって成し遂げてくださるのです。これを知る人は、もはや自分の力で努力することをし

あなたは、なぜ自分の罪が赦されたことを知っているのですか。その知識はどこから来たのでしょうか。教会で誰かが教えてくれたのでしょうか。いいえ、そ

うではありません。この知識は、主イエス様ご自身が啓示によつて、上から与えてくださったのです。もちろん聖書の中に、罪の赦しの事柄が書かれているのを読むことはできます。しかし、読んだ人自身の知識として信仰に結びつくのは、栄光の父ご自身、主である神が、知恵と啓示との霊をその人にたまわった時です。その時はじめて、この歴史的事実があなたのものとなるのです。聖書に書かれている神のみことばは、このようにして、あなたにとつて生きたことばとなる必要があります。

罪の赦しは、啓示によつて自分のものとなることができます。罪の力からの解放も同じです。あなたが心の目をはつきりと開き、イエス・キリストの内に、自分がもうすでに死んでいることを発見するならば、罪の力からの驚くべき解放を体験することができるようです。

ローマ人への手紙6章6節には「私たちの古い人が

尋ねると、その答えはまちまちです。たいていの人は、自分の体験が正しいということだけを主張するために、自分の氣に入つたみことばを言います。これは悲しむべきことと言わなければなりません。その人が通つた特別な経験や、特別な教えは、そんなに大切ではありません。その人が経験によつて、主イエス様を、また主イエス様がなされた御わざを心の目で見たかどうかが大切なのです。

もしその人の体験や証しが、主イエス様から離れていて、イエス様とあまり関係がないようなら、役に立たないということです。パウロは、ローマ人への手紙6章6節でこの点を強調して、私たちは「キリストとともに十字架につけられた」と語っています。

中国で福音宣教した信仰の偉人、あのハドソン・テラーの信仰の戦いをご存知でしょうか。かつて彼は、自分の内から主イエス様の溢れるいのちが流れ出るような生活を心から求めていました。しかし、どうしたらイエス様の中に飛び込むことができるのか、その術

キリストとともに十字架につけられた」とあります。みことばを暗記することもできるでしょう。でも、それだけでは十分ではありません。「我、キリストとともに十字架につけられたり」のみことばの事実を、啓示によつて知らなければなりません。私たちはそれを、感じることも、理解することも、すぐに悟ることもできないかもしれません。しかしそれを知っています。頭ではつきりと理解できなくても、救われたこと、主イエス様と共に十字架につけられたことは、知らず知らずのうちに自分のものとなっています。それは啓示によつて知ったからです。

もしあなたが、自分は主イエス様とともに十字架につけられた、という事実を啓示によつて知るならば、その知識は、何ものによつても動かされない深い知識になります。

多くの勝利の生活を送っているキリスト者がいますが、その人々にいったいどうしたら、そうなれるのかと

を知りませんでした。懸命に努力しましたが、無駄でした。

ところが突然、解放の日がやって来ました。ある時、聖霊によつて彼の心の目が開かれ、自分はすでにイエス・キリストの内にあつて主と共に死に、主と共に葬られ、主と共によみがえり、主と共に天に座らせていただいている(エペソ2・6)ということを知ったのでした。

主である神は、ハドソン・テラーにこれらのことを、みことばをもつてお語りになられました。その結果、神が自分などの知らないすべてのことをご存知のお方であることを悟り、神のみことばによつて、しっかりと自分で信仰の計算をして、踏み出そうと決めました。この時から、彼は驚くべき信仰の生活に入るこ

とができたのです。
主がぶどうの木であり、自分はその枝である。自分はぶどうの木の一部である。これは以前からそうだったのであり、今そうなのではないということ

を知ったのです。「私を、ぶどうの木の子にしてください」と願うのは愚かしいことだ、とわかったのです。

例えば部屋の中にすでにいる人が、一生懸命その部屋に入りたいたいと思って努力するのは馬鹿げたことで、考えられません。これと同じように、もし啓示により心の目が開かれ、私たちはもうすでに主イエス様の内にあるということを知るならば、イエス様の内に入るうともがくことはなくなるはずです。

啓示によつてみことばを知れば知るほど、私たちは自分のために祈ることが少なくなり、主に感謝することが多くなるでしょう。なぜ、私たちはそんなに自分のことについて祈るのでしょうか。もうすでに主が成してくださっていることに、心の目が開かれていないからです。

次のような例もあります。ひとりの信者が、自分の霊的な状態を顧みて非常に悩んでいます。この人は、ほかの信者の勝利に満ちた立派な生活を見て、自分は

あのようではない、自分は信者じゃないのではないかとさえ考えこんでいます。そこへ、二人の信者がやってきます。その人に同情して二時間以上も、「あなたは

イエス様から離れては何事もなすことができないのですよ。イエス様から離れては何も得ることができないし、何も経験することができないのですよ」と、一生懸命に話しをしますがダメでした。悩める信者は二人に言います。「私はもつともつと、祈らなければならぬい」。すると二人が、「イエス様はもうすでに、あなたにすべてのものを備え与えてくださっているのですよ。今さら祈り求めることはないのでないですか」と言いました。すると悩めるクリスチャンは、「イエス様は、まだ私にすべてを与えてくださってはいません。もしイエス様が私にすべてを与えてくださっているならば、こんなにすぐ怒ったり、相変わらずこんなに弱い性格のはずがありません。私は、もつともつと祈らなければならぬのです」と。二人は「それでは、あなたは祈り求めたら、祈ったことを全部もらえますか？」と聞

きました。「残念ながら、今まで何もただけませんでした」と悩める信者は告白せざるを得ませんでした。すると二人が「私たちは救われるために何も努力しませんでした。それと同じように、自分が聖さに至るためにも、努力を必要としません」と言いました。

そこへ三人目の兄弟が入つて来て、そばにあった魔法瓶を悩める兄弟に見せて話しました。「君、もしこの魔法瓶が、どうか魔法瓶にしてくださいと祈ったらあなたはこう思いますか」「それはあなた、馬鹿げていますよ。もうすでに魔法瓶なのですから」「君、そうだろう。でもあなたも、今まで魔法瓶と同じように愚かしいことをやり続けて来たのですよ。主である神は、あなたを永遠の昔からキリストの内に置いてくださり、あなたは、キリストの内です。死に至り、キリストとともによみがえらせられ、今や新しい命、勝利の命に生きているのです。ですから、『主とともに十字架につけてください、勝利の生活を送らせてください』と祈り求める必要は、もうないのです。主は、古いあなたはす

に死んでいる、あなたは永遠の命を持っている、とおっしゃっておられます。あなたがすでにいただいたものをいくら祈り求めても、その祈りは愚かな祈りです。もはや必要ありません。…もう、すでに主が成してくださるのです。ただ、この事実の心に心を留めることが必要なのです。あなたは、あなたの古い人が死ぬように、懸命に努力する必要はありません。また、死んで死んでしまっているのですから。あなたは、ただ主の成されたことを心の目で見て、それに対して心からなる感謝の祈りを捧げさえすればよいのです。『神様、感謝いたします。あなたは私のような者を、キリストの内に置いてくださり、キリストとともにすべてのものをお与えくださいました。心から感謝致します』と言えはよいのです。』

こうして、三人目の兄弟が、勝利の生活の秘訣について話した時、主はあわれんでくださり、悩める兄弟に上からの光を与えてくださいました。そして彼は、

御心になつた生活ができるようになったということです。

その3 なぜこの事実を知らなければならないのか

最後の問いです。私たちは、なぜこの事実を啓示によつて知らなければならないのでしょうか。答えは、私たちのあらゆる問題を根本的に解決へと導いていただくためには、どうしても十字架が必要だからです。この点について少し考えてみましょう。

今、日本の政府が、酒の害は市民生活を脅かす非常にひどいものであるから、「酒を飲んではいけない」という法律を設けたとします。そして警察官が、あらゆる場所や酒場に行つて酒を没収^{はつしやう}したとします。これでは果たして飲酒が止むでしょうか。いいえ。それだけでは十分ではありません。酒を造る工場を閉鎖してしまわなければ、何の役にも立ちません。

私たちは強情です。私たちの行ないは、いわば「酒」

という製品です。イエス様は十字架の上で血潮を流され、罪をお赦しになりました。製品の取り締まりをなさつたわけです。しかし主は、それだけでは満足なさいません。製品ばかりではなく、工場自体を無くしてしまいたいのです。罪人をどうにかしてしまわなければならないと思つておられるのです。

主イエス様の血潮は完全で十分でしたから、私たちは努力なしに罪の赦しを得ました。同じように、私たちは自分の力を用いなくても、罪の力から解放されます。主イエス様は、完全な救いを成し遂げられた時、製品つまり罪のことだけでなく、工場つまり罪人そのものについて、お考えになつておられました。

主イエス様の血潮は、各々の一つ一つの罪から私たちを聖めてくださいます。それとともに、初めの人アダムから受け継いだ罪の性質をも十字架にかけて死んでくださいました。どうかこの歴史的事実を、この神の事実を、啓示によつて見ることができまうように。そうすれば、すべての問題が氷が溶けるように、根本

から解決します。最後にもう一度ローマ人への手紙6章をみましょう。

(ローマ 6:3)

私たちの古い人がキリストとともに十字架につけられたのは、罪のからだが減びて、私たちがもはやこれからは罪の奴隷でなくなるためであることを、私たちは知っています。

(ローマ 6:6)

ここに「私たちは知っています」とあります。本当に私たちは私たちの古い人がキリストとともに十字架につけられたことを知っているでしょうか。あなたはこのことを啓示によつて知つたでしょうか。それとも、実はまだ知ってはいないのでしょうか。3節にはこう書いてあります。

あなたがたは知らないのですか。キリスト・イエスにつくバプテスマを受けた私たちはみな、その死にあずかるバプテスマを受けたものではありませんか。

イエスの救い(3) 進歩への道「知ること」

私たちがキリスト・イエスにつくバプテスマを受けたのは、その死にあずかったことを証しするものでした。主イエス様が、私たちの心の目を開いてこの事実を見させてくださいますように。

本メッセージは、ロバの子サーバーの「バック兄 暦年ファイル」に録音テープが収録されています。

次号掲載予定は、「進歩への道」計算することです。

もう一つの病

松田博

毎年四月に行なわれている大学の同窓会が、今年は、新型コロナウイルスのため中止になってしまいました。最近の同窓会では皆が後期高齢者なので、話題はほとんどそれぞれが患っている病気の治療についてです。

でも病気が治ったからといってその人ははたして幸せになれるのか？ 長生きすればする程、将来に対する不安も多くなってくるのではないのかな？と私は思いました。

長血の女

マルコの福音書5章25節から34節には長い間、病で

苦しんでいた女の癒の話が書かれています。

ところで、十二年の間長血をわずらっている女がいた。この女は多くの医者からひどいめに会わされて、自分の持ち物をみな使い果たしてしまっただが、何のかいもなく、かえって悪くなる一方であった。(マルコ 5:25-26)

彼女は病をいやすために多くの医者にかかりました。その結果はどうだったのでしょうか。少しでも良くなっていればあきらめもついたでしょう。しかし、財産をすべて使ってしまったにもかかわらず、かえって悪くなり、病が癒やされる希望は完全に断たれてしまいました。彼女は絶望していました。

イエス様との出会い

ある時、絶望の中にいた彼女の近くにイエス様が来られました。彼女はうわさでイエス様がなされた素晴らしいみわざを聞いていたので、「医者には治すことの出来ない病もイエス様には治すことが出来る」と堅く信じて直ぐにそれを実行しました。

彼女は、イエスのことを耳にして、群衆の中に紛れ込み、うしろから、イエスの着物にさわった。「お着物にさわることでもできれば、きつと直る。」と考えていたからである。すると、すぐに、血の源がかれて、ひどい痛みが直ったことを、からだに感じた。(マルコ 5:27-29)

彼女がしたことは群衆の中に紛れ込み、「きつと治る」と堅く信じてイエス様の御衣に触れただけでした。しかし、彼女が御衣に触れた瞬間、この世の医者では十二年かかって治すことが出来なかった病が直ちに

もう一つの病

癒やされました。さらに、「血の源がかれた」と書かれているようにイエス様のいやしは、一時的ないやしではなく、その病の源を癒す完全な治療でした。

もう一つの病

さて、マルコの福音書5章25節から34節の中では触れられていませんが、この女はもう一つの深刻な病を患っていました。その病気はどのようなものなのでしょうか。それは、

- ・すべての人が生まれながら持っている病です
- ・しかし、人間は誰一人として自分が持っているこの病に気付いていません

・この病は肉体の病よりもより深刻であり、その治療は肉体のいやしよりも重要です

・この病が起す諸症状は創造主なる神様を怒らせ、悲しませているものです

同じマルコの福音書の7章でイエス様は人の外側に

現れるこの病の症状を挙げています。

人から出るもの、これが、人を汚すのです。内側から、すなわち、人の心から出て来るものは、悪い考え、不品行、盗み、殺人、姦淫、貪欲、よこしま、欺き、好色、ねたみ、そしり、高ぶり、愚かさであり、これらの悪はみな、内側から出て、人を汚すのです。(マルコ 7・20～23)

ここに書かれているような悪い思いや行ないは誰でも思い当たるのではないでしょうか。これらの行ないは注意すれば、一時的には抑えることが出来るかも知れません。しかし、再び同じ悪い行ないをしてしまっている自分に気が付くのではないのでしょうか。それは絶えず私たちの心の中から湧き出て来て人を汚すのです。

当時は治療が出来なかった長血と言う病氣は、医学の進歩で今は治せるでしょう。しかし、このような悪い行ないを人間に起こさせる病は、現代医学によって

も決して治すことが出来ません。聖書ではこの病を「罪」と言っています。

罪の起源は、旧約聖書の創世記に遡ります。神様は天地宇宙を創造された時に人間も造られました。最初の人間は神様に似たものとして造られ、完全で罪もありませんでした。しかし、最初の人アダムは神様の命令に逆らい、食べてはならないと固く禁じられていた木の実を取って食べてしまった結果、罪がアダムに入りました。

それ以来、アダムの子孫であるすべての人間は、この「罪」を引き継いで生まれて来ております。ローマ人への手紙5章12節の前半にはこのことについて、次のように書かれています。「そういうわけで、ちょうどひとりの人(アダム)によって罪が世界にはいり」、罪を持った人間は神様から離され、神様に逆らって自分が良いと思うことを行なうようになりました。神様の目から見た人間の姿が、ローマ人への手紙3章に書かれています。

義人はいない。ひとりもない。悟りのある人はいない。

神を求める人はいない。すべての人が迷い出て、みな、ともに無益な者となった。善を行なう人はいない。ひとりもない。(ローマ 3・10～12)

彼らの目の前には、神に対する恐れがない。

(ローマ 3・18)

ここで、「すべての人」と書かれているように、たとえ人の目には良い人、立派に見える人でも神様の目から見ると義人ではないと宣告されています。

罪がもたらした定め

罪は全ての人間に二つの重大な定めをもたらしました。ヘブル人への手紙9章には次のように書かれています。

人間には、一度死ぬことと死後にさばきを受けることが定まっている… (ヘブル 9・27)

(1) すべての人には死ぬことが定まっています

先程お読みしたローマ人への手紙5章12節の後半には次のように書かれています。「罪によって死がはいり、こうして死が全人類に広がったのと同様に、——それというのも全人類が罪を犯したからです。」人は生まれることも死ぬことも自分の意志で決めることは出来ません。それらは人生という学校の必修科目と言えます。死はすべての人に必ず訪れ、それを避けることは決して出来ません。詩篇には人間の寿命について次のように書かれています。

私たちの齢は七十年。健やかであつても八十年。しかも、その誇りとするところは労苦とわざわいです。それは早く過ぎ去り、私たちも飛び去るのです。

長血の女の持っていた肉体の病はイエス様によって癒されました。しかし、この女も遅かれ早かれ神様の定められた時に死を迎えなければなりません。そして、もう一つの大切なことがあります。

(2) 罪を持った人は死後にさばきを受けなければなら
ないと定められています

ヨハネの黙示録には人は死んだ時、全員神様の前に
立たされると書かれています。

また私は、死んだ人々が、大きい者も、小さい者も御座
の前に立っているのを見た。そして、数々の書物が開かれ
た。また、別の二つの書物も開かれたが、それは、いのちの
書であった。死んだ人々は、これらの書物に書きしるさ
れているところに従って、自分の行ないにに応じてさばか

で自分の行ないを嘆いています。

私は、私のうち、すなわち、私の肉のうちに善が住んで
いないのを知っています。私には善をしたいという願いが
いつもあるのに、それを実行することがないからです。私
は、自分でしたいと思う善を行なわないで、かえって、し
たくない悪を行なっています。もし私が自分でしたくな
いことをしているのであれば、それを行なっているのは、
もはや私ではなくて、私のうちに住む罪です。そういう
わけで、私は、善をしたいと願っているのですが、その私
に悪が宿っているという原理を見いだすのです。

(ローマ 7・18～21)

私は、ほんとうにみじめな人間です。だがこの死の、
からだから、私を救い出してくれるのでしょうか。

(ローマ 7・24)

(2) イエス様の十字架による完全な救いがあります

もう一つの病

れた。

この避けることの出来ない深刻な定めを知った時、
私たちはこの恐ろしいさばきに会わないために、今の
うちに死後の備えをする必要があります。それは、神
様と人間との間の隔ての壁となっっている罪の問題の解
決です！

罪の問題の解決方法

(1) それは人間の努力では不可能です

人間の中には「罪」が存在しているので、神様に喜ば
れる良い行ないをしようとしても誰一人「義人」、即ち
「罪が全くない人」となることは決して出来ないので失
望せざるを得ません。

使徒パウロは神様の定めた律法を固く守って、正し
く歩もうと努力した人でありました。しかし、努力の
結果は絶望でありました。彼はローマ人への手紙7章

絶望的な言葉を吐いていたパウロでありましたが、
次の節からは、感謝の叫びに変わっています。

私たちの主イエス・キリストのゆえに、ただ神に感謝し
ます。(ローマ 7・25)

こういうわけで、今は、キリスト・イエスにある者が罪
に定められることは決してありません。なぜなら、キリス
ト・イエスにある、いのちの御霊の原理が、罪と死の原理
から、あなたを解放したからです。肉によつて無力になっ
たため、律法にはできなくなっていることを、神はしてく
ださいました。神はご自分の御子を、罪のために、罪深い
肉と同じような形でお遣わしになり、肉において罪を処
罰されたのです。(ローマ 8・1～3)

ここに、イエス様の十字架の贖いこそが人間の持つ
て生まれたどうしようもない罪の解決の道であること
が書かれています。それは人間的な努力ではなく、神

様の方から一方的に人間に差し伸べられた恵みでした。パウロはエペソ人への手紙2章でエペソの教会の信者に次のように言っています。

あなたがたは、恵みのゆえに、信仰によつて救われたのです。それは、自分自身から出たことではなく、神からの賜物です。行ないによるものではありません。だれも誇ることもないためです。
(エペソ 2:8-9)

罪の全くないイエス様が私たちと同じ人間の姿を取つてこの世にお生まれになり、私たち全人類の罪の身代わりとして十字架にかかり血を流して死んでくださったことにより、私たちの罪は完全に赦されています。イエス様が十字架上で流してくださった血こそが私たちの罪を解決するための唯一の手段なのです。ヘブル人への手紙9章には次のように書かれています。

それで、律法によれば、すべてのものは血によつてきよ

められる、と言ってよいでしょう。また、血を注ぎ出すことがなければ、罪の赦しはないのです。(ヘブル 9:22)

イエス様の救いのみわざは既に二千年前に完成されており、今私たちは恵みの時代に生きているのです。救われたいと思う人は誰でも今すぐに救いをいただくことが出来ます。

(3) 必要なことは「信じ受け入れること」です

それでは救われるためには何をしたらよいのでしょうか。最初にお読みしたマルコの福音書5章の中で長血の女の病がいやされるためにしたことは何だったのでしょうか？ イエス様を信じて御衣に手を触れただけでした。お金や様々な努力は一切必要ありませんでした。そして、イエス様のいやしは完全でした。

それと同様に、私たちの罪が赦されるために必要なことは、イエス様の御前に出ることです。神様に逆ら

ネの福音書3章には次のように書かれています。

神は、実に、そのひとり子をお与えになつたほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。神が御子を世に遣わされたのは、世をさばくためではなく、御子によつて世が救われるためである。御子を信じる者はさばかれない。信じない者は神のひとり子の御名を信じなかつたので、すでにさばかれている。

(ヨハネ 3:16-18)

救われた人のいただく特権

イエス様を信じ受け入れた人は誰でも次のような特権をいただくことが出来ます。

(1) すべての罪(過去、現在、未来の)が完全に赦され、死後のさばきからも解放され、天の御国で永遠に生きることが約束されています

従つて、死に対する不安からも解放されます。ヨハ

救われた後でもこの世で生活する限り目の前にある現状は変わりません。いろいろな困難もあります。しかし、救いにあずかった人は、イエス様を通して父なる神様から助けていただくことが出来ますので、どの

ような環境の中でも不安や恐れからも守られます。ヨハネの福音書14章でイエス様は次のようにおっしゃっています。

あなたがたは心を騒がしてはなりません。神を信じ、またわたしを信じなさい。
(ヨハネ 14:1)

ピリピ人への手紙4章のことは、困難の中にいる私たちに励ましを与えてくれます。

何も思い煩^{わづ}わないで、あらゆるばあいに、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。そうすれば、人のすべての考えにまさる神の平安が、あなたがたの心と思いをキリスト・イエスにあつて守ってくれます。
(ピリピ 4:6-7)

私は、貧しさの中にいる道も知っており、豊かさの中にある道も知っています。また、飽^あくことにも飢^うえることに

も、富^とむことにも乏^{とほ}しいことにも、あらゆる境遇に対処する秘訣^{ひけつ}を心得ています。私は、私を強くしてくださる方によって、どんなことでもできるのです。

(ピリピ 4:12-13)

また、私の神は、キリスト・イエスにあるご自身の栄光の富をもつて、あなたがたの必要をすべて満たしてください。
(ピリピ 4:19)

イエス様は待つておられます

マルコの福音書5章の長血の女の話をもう一度思い返してください。病を治された女がそのまま立ち去ろうとした時、イエス様は「群衆の中を振り向いて、『だれがわたしの着物にさわったのですか。』と言われ(30節)、『それをした人を知ろうとして、見回しておられた。』(32節)と書かれていました。32節では「見回しておられた」と進行形で書かれていることから、イエス様は女

が御前に出るまで待つていてくださいました。イエス様は御前に出た女をとがめることなく、優しく「娘よ。あなたの信仰があなたを直したのです。安心して帰りなさい。病気にかからず、すこやかでいなさい。」(34節)とおことばをくださいました。イエス様はこの女に単なる肉体の病のいやしよりもっと素晴らしいものを与えるために、女を御前に出させようと待つていてくださったのです。

今もイエス様は、一人でも多くの方がこの素晴らしい恵みを求めて御前に来ることを待つておられます。

松田 博 (吉祥寺キリスト集会)

